

JA全農 WEEKLY

10面

共同購入トラクター、YT357Jに決定

7面

「AG/SUM 2018」に協賛
農業技術への取り組み紹介



全農が協賛した「アグリテックサミット (AG / SUM) 2018」で講演する神出元一理事長 (7面)



岡山県で開かれた農業者向け青空講習会で畑の断面を観察する参加者 (11面)



共同購入トラクターに決まったYT357JZUQH=製造元:ヤンマーアグリ(株) (10面)

- 2 役員・参与がカナダ・アメリカの農業事情視察(総務部)
- 3 自民党本部で大阪物産展(大阪府本部)
ブルガリアで冷凍寿司・日本産農産物紹介(輸出対策部)
- 4 タイ・バンコクの食品見本市に出展(茨城県本部)
初の海外メディアツアー開催(広報部・畜産生産部)
- 5 全国農協カントリーエレベーター協議会が総代会(米穀部)
「純情産地いわて30周年」で躍進大会(岩手県本部)
- 6 国際養鶏養豚総合展に協賛・出展(畜産生産部)
大手通販会社との協業で新市場を開拓(フードマーケット事業部)
- 8 JAズームイン(JAにじ)
- 9 県本部だより(茨城県本部)
- 11 岡山県で農業者向け青空講習会開催(営農・技術センター)
- 12 FMラジオ番組「TODAY'S AGRI NEWS」本格スタート(広報部)
JAタウンショップ紹介
JA富里市(千葉県)

平成30年6月18日の大阪府北部を震源とする地震により被害を受けられた皆さまへ
このたびの地震により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧・復興に向けて総力をあげて支援してまいります。

平成30年度全農役員海外視察を実施

カナダ・アメリカで肥料原料・飼料穀物集出荷の 最前線や3月から稼働の食肉加工施設など視察

全農の海外事業の取り組みを实地確認し、今後の自己改革、事業運営の一助とするため、3年に1回開催される役員海外視察（2班制で今回は第1班）を5月22日～6月1日の11日間、役員・参与合わせて12人が参加しカナダとアメリカで実施しました。

【総務部】



研修に参加した役員・参与の皆さん（アメリカ、CGBエンタープライズの取引先農家の大豆畑で）

初めにカナダを訪問し、全農の塩化加里購入の最大の取引先であるカンポテックス社の視察を行った後、アメリカに移動し、全農の現地子会社・関連法人であるP&Z FINE FOOD S（PZF）、全農グレイン（株）、CGBエンタープライズ（株）などを訪問し現地の農業事情を視察しました。

巨大なスケール 加里採掘に驚き

カンポテックス社では、加里の採掘現場を視察した後、本社でサイトCEOとの意見交換を行いました。地下約1000メートルにある採掘現場は、東西南北に坑道が何キロにもわたり基盤の目のように整備されており、車で移動した先では重量185



加里鉱山地下約1000mで説明を受ける視察参加者

トもある採掘機械で1時間あたり数百トの採掘をするというダイナミックな事業を直に視察することができ、スケールの大きさに驚きました。

CEOとの意見交換の場では、肥料原料を取り巻く世界情勢について説明を受けた後、大澤憲副会長が英語で視察のお礼を述べるとともに、高品質な加里質肥料の継続的な供給を依頼し、和やかな雰囲気の中で視察を終えました。

アメリカでは、初めに全農アメリカと現地卸売会社の合弁で設

立した食肉加工販売会社（PZF）の加工施設を視察しました。

輸出拡大へカット肉 販売の重要性確認

これまでは日本からブロックで輸出され販売されていた牛肉を、この施設でカットして販売することで販路を広げることを目指しており、薄切りの肉を食べる習慣・文化がない国での新たなチャレンジではありますが、今後の国産農畜産物の輸出拡大に当たって、重要な取り組みであると感じました。

全農グレイン・CGBでは、穀物メジャーとしてのぎを削り、日本の畜産農家に高品質な飼料原料を安定的に供給するための事業内容を視察しました。全農グレインは、従来から単一の穀物エレベーターとしては世界最大級の取扱量を誇っていますが、今年3月に完了した拡張工事に

より従来の40%アップの年間1800万～1900万トの輸出能力を有するまでになっており、サイロ数を増やすなど集荷能力を高めることに尽力しているCGBとのタッグが心強く感じました。

今回の視察を通じ、日本農業のために現地で日夜努力する全農グループ従業員の奮闘に感銘を受けるとともに、JAグループ海外事業を築き上げてきた諸先輩への感謝の気持ちを強く感じました。

大澤副会長から解団に当たり、「今回の視察で得た貴重な体験、団員の絆を糧に、今後の事業展開や諸課題への対応に生かしていく」とのコメントがありました。



食肉加工施設を視察する参加者



大阪物産展～大阪のええもん・うまいもん勢ぞろい!～を開催

2025年の大阪万博誘致に沸く大阪府の魅力を発信

大阪府本部

あいさつするJA大阪中央会の西川副会長



物産展は近年、自民党本部前で都道府県・都市単位で開かれており、直近では5月に千葉県、神戸市の物産展が開催され、今回は大阪府が企画したものです。開会セレモニーでJA大阪中央会の西川喜清副会長があいさつし、糖度が高いことで世界ギネスに登録さ

JA大阪中央会、一般社団法人大阪外食産業協会は6月13日、東京・永田町の自民党本部で大阪物産展を開催し、二階俊博幹事長と大阪府選出国會議員、JA役員が大阪府産の農畜産物、海産物をPRしました。

多くの人が訪れた大阪府産の農産物販売



れた包^{かほちか}近の「桃」と「大阪ぶどう」、「泉州水なす」などを紹介しました。当日は多くの方々が来場し、なにわの食文化に根差した農畜産物、海産物、たこ焼きとお好み焼きに代表される「粉もん」など、大阪の魅力あふれる「ええもん・うまいもん」を取り上げ、会場全体が盛り上がりました。



冷凍寿司・日本産農産物紹介・試食を実施

在ブルガリア日本大使館でレセプション

輸出対策部

商品のプレゼンをする輸出対策部の上野一彦部長



このレセプションは日本食などを紹介するイベントで、全農輸出対策部が商品のプレゼンを行い、全国農協食品(株)のブルガリア現地法人が製造する日本産米原料の冷凍寿司の他、JA全農インターナショナル(株)が輸出した日本産のメロン・

JA全農グループは5月30日、在ブルガリア日本大使館が企画し、同公邸で開かれたレセプションで、日本産米を原料とした冷凍寿司の他、日本産青果物などを欧州の皆さまに紹介し、試食・試飲いただきました。

振る舞われたブルガリアで製造する冷凍寿司



参加者からは、その優れた外観・品質とおいしさに驚きの声をいただきました。サクランボ・ブドウ・リンゴや英国で製造している日本産米を原料にした米ビールなどを紹介し、ブルガリア行政関係者や食品卸・レストラン関係者ら約80人の参加者に試食・試飲いただきました。





「茨城県産」を世界に売り込め!



タイ・バンコクの食品見本市「THAIFEX2018」に出展

茨城県本部



大盛況の茨城県本部ブース

タイ・バンコクのIMPACT展示会場で5月29日から6月2日、食品見本市「THAIFEX2018」が開かれ、茨城県本部はJAグループで唯一出展しました。世界の約150カ国から6万2039人が訪れ、茨城県本部、県内JA職員と生産者が積極的に商品を売り込みました。

今回は、県内4JAから「健康・ヘルシー」をキーワードに、海外で需要の高い品目を出品しました。JA常陸の「ゆずこんにゃくゼリー」、JA土浦の「れんこんパウダー」、JA新ひたち野の純米大吟醸酒「空と大地のみり」、JA茨城むつみの「さしま茶」などを持ち込みPRしました。

訪れたバイヤーは、「BARAKIの名は初めて聞いたが、面白い商品があるのを知った」と話しました。

展示したJAPANパブリオンにはバイヤーラウンジが設けられ、現地著名シェフが茨城県産商材を使用した料理を訪れたバイヤーに提供しました。「れんこんパウダー」を使った「れんこんのクリームタルト」、「さしま茶粉末ほうじ茶」を使った「ほうじ茶のパンナコッタ」などのスイーツを振る舞い、県産品のおいしさを伝えました。

茨城県本部は、今後も農畜産物の輸出事業検証と積極的なプロモーション活動により、茨城県産品の販路拡大、地域・産地の活性化に取り組んでいきます。



全農初の海外メディアツアーを開催

米国の飼料穀物集出荷の最前線や食肉加工施設を案内

広報部・畜産生産部

全農は6月3〜8日、新聞社などメディアの記者(3社4人)を対象に、全農グループの米国飼料事業拠点を案内する海外メディアツアーを実施しました。

日本向けに競争力ある穀物の安定供給を図るため、船積み能力を年間1900万ト(550万ト増)まで増強した全農グレイン社、内陸の集荷拠点の拡充を進めているCGB社の内陸集荷施設を視察。また、米国へ和牛輸出拡大を図るため、昨年11月に設立した食肉加工を行うP&Z

「現地従業員、穀物生産者の生の声が聞けて良かった」などの感想が聞かれました。今後国内外でのツアーを通し、メディアとの関係強化を図り、全農の存在価値、協同組合である全農の役割を広くアピールしていきます。



船積み能力を増強した全農グレインの穀物輸出施設



記者の質問に答える穀物生産者(イリノイ州で)

第46回全国農協カントリーエレベーター協議会総代会

上級オペレーター 19人認定、農水省がCE環境美化の取り組みで講演

米穀部

全国農協カントリーエレベーター協議会（CE協議会）会長・JA上伊那の御子柴茂樹代表理事組合長は6月8日、東京・大手町のJAビルで第46回総代会と上級オペレーター認定式を開きました。

総代会では、平成29年度事業報告と収支決算、平成30年度事業計画と収支予算について協議し、議案は全て承認されました。また、任期満了に伴い、幹事の選任について協議した結果、御子柴会長が再任されました。

上級オペレーター認定式では、新たに19人が認定され、御子柴会長から認定証と記念品が授与されました。上級オペレーターは、CE協議会が定める条件を満たし、JA

の組合長から推薦を受け、CE協議会が実施する試験に合格した者が認定されます。CEの運営に十分な技術・知識を持



総代会であいさつする御子柴会長

ち、運営管理の適切化、品質事故防止の強化などが期待されています。

認定式後は、農水省から環境美化に係る講演も行われ、CEの衛生管理について周知を図りました。

平成29年度上級オペレーター認定者（敬称略）

県名	JA名	氏名
宮城	JAみやぎ登米	田口 太士
	JAみやぎ登米	佐々木 義紀
	JAいしのまき	星 春樹
秋田	JAこまち	佐藤 治
福島	JA福島さくら	中野 一弥
長野	JA上伊那	宮下 正幸
	JA胎内市	佐藤 陽一
新潟	JA越後さんとう	菅沼 尚貴
	JAぎふ	北川 敦志
岐阜	JAにしみの	水谷 重夫
	JA香川県	増田 義治
	JA香川県	四宮 貴弘
香川	JA香川県	上原 和仁
	JA筑前あさくら	下田屋 仁隆
	JA筑前あさくら	樋口 浩之
福岡	JA柳川	城戸 慎平
	JA福岡京築	本末 剛士
	JAやつしろ	中田 丈裕
熊本	JAかみましき	本田 晃土朗

「純情産地いわて」さらなる飛躍誓う

「純情産地いわて30周年」で躍進大会

岩手県本部

岩手県本部は6月1日、盛岡市内のホテルで「純情産地いわて30周年」躍進大会を開きました。生産者、取引先をはじめとした来賓、職員ら約260人が出席しました。

「純情産地いわて」は、県産農畜産物の優れた品質を全国に広くPRするために名付けたブランドです。岩手県本部は、「純朴」な生産者が「情」を込めて農畜産物を作っている産地」と定義しています。

今年度は、「純情産地いわて」を掲げて30周年です。この大会では、県内の生産者やJA関係者、取引先、関係機関の皆さまに感謝の気持ちをお伝えするとともに、岩手県農業のさらなる発展を誓いました。

同大会では、女優の「のん」さんが登場。昨年度に引き続き、「純情産地いわて」を「のん」さんに手渡しました。「のん」さんは、昨年度、宣伝本部長の仕事を通じて、生産者と接したことを振り返りながら、「岩手県の農畜産物には、生産者の愛情や思いが詰まっており、絶対においしいという自信があります」と県産農畜産物を絶賛しました。



委嘱状を受け昨年度に続き「純情産地いわて」を務める「のん」さん



今後末永く「純情産地いわて」が続くことを祈念し、がんばろう三唱

岩手県本部は今年度、「純情産地いわて」を掲げて30周年という記念すべき年として、8月11日に「感謝祭」を行うなど、多くのイベントを企画しています。今後の展開について、ぜひご期待ください。

News!



「生産性向上と健康を両立する取り組み」をアピール

国際養鶏養豚総合展に協賛・出展

畜産生産部

全農は5月30日～6月1日に名古屋市港区のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開かれた「国際養鶏養豚総合展(IPPSS)2018」に協賛・出展し、訪れた畜産生産者やJA、畜産関係者にJA全農グループの「畜産の生産性向上と健康を両立する取り組み」を紹介しました。

IPPSSは養鶏・養豚経営の近代化・効率化を図るため、鶏卵・鶏肉・豚肉の生産・流通に関する世界最先端の施設・機械・器具・資材が一堂に集まる国内最大の展示会です。

全農をはじめ、全農畜産サービス(株)、(株)科学飼料研究所、JA全農たまご(株)は、



畜産の生産性向上と健康を両立する取り組みをアピールしたJA全農グループの出展ブース

「創る」「殖やす」「育む」「守る」「整える」「衛る」「支える」という七つのテーマに沿って、多産と肉質を両立した「ハイコープSPF種豚」、養豚向けの妊娠鑑定機「イマーゴ・S」、哺乳豚用給餌器「ミルクキーウィーンファイダー」、不快なふん便臭を甘い香りに変える「デオマジック®HG」、鶏の腸内細菌叢を整えサルモネラを低減させる「JAI-ZKバチルス」、家畜の健康診断を行う「全農家畜クリニック」、養豚生産管理システム「Web PICS」などを展示・説明しました。

また、特別講演ではJA全農たまご(株)東日本営業本部第1営業部の佐藤部長の講演をはじめ、全8テーマの講演が行われました。

News!



大手通信販売会社との協業により新しい市場を開拓

みのりみのるプロジェクトと(株)フェリシモの共同企画スタート

フードマーケット事業部

JA全農みのりみのるプロジェクトは、農畜産物やJAグループ商品を一般消費者に販売する新たな手法として、株式会社フェリシモhaccoーブランドとの共同企画をスタートしました。第一弾は、農家が昔から愛用するクミアイ長靴(全農クミックス裏付き先丸農長)です。

6月8日、フェリシモhaccoー!の通販サイトで「本格派って、こういうことかもしれない」のキャッチコピーに続き、「全農による、農家のための長靴が、ひよんなご縁からhaccoー!に登場です! シンプルながらも、動きやすさにこだわった長靴。それもそのはず、農作業用だからです。ブラウンのラインがポイントの、まるで乗馬ブーツのようなかっこいいデザインで、『普段から使えそう!!』とスタッフが食いついたことがはじまり」と紹介された「クミアイ長靴」は、登場と同時に人気ランキング5位、2日目に3位、3日目には「売切れ納品待ち」サインとともにランキング1位を獲得しました。

週間販売目標50足でスタートしたこの企画ですが、終わってみれば200足を販売する大成功! 購入したのは都会のF1層(20～35歳の女性)で、「クミアイ長靴の存在すら知らない人ばかり。まさに新しい市場を開拓することができました。

みのりみのるプロジェクトとフェリシモは、一つ一つの商品を丁寧に分かりやすく楽しくブログで説明する通販ならではの販売手法をさらに試行し、今年度中に新しいスタイルの通販サイトをスタートする予定です。



ブログはこちらから



株式会社フェリシモ 神戸市中央区の大手通信販売会社。1965年創業。自社開発商品はファッション・生活雑貨・ホビー商品・美容商品・食品など。

デジタルイノベーションが農業の未来を拓く

「AG／SUM 2018」でJAグループの農業技術への取り組み紹介

全農は6月11～13日、東京・日本橋で開かれた「アグリテックサミット（AG／SUM）2018」に協賛し、神出元理事長の講演やパネルディスカッションへの登壇、先進機器の展示を行うなど、JAグループの農業技術への取り組みを紹介しました。【広報部】

「AG／SUM」は日本経済新聞社が主催し、農業とテクノロジーをテーマとした講演、展示などによるイベントで、今年

で2回目。JAグループでは、昨年は農林中金だけの協賛でしたが、今年は全農・共済連・全中を加え全国4連での協賛となりました。

神出理事長が「農業のデジタルイノベーション」で講演

11日には、全農の神出理事長が「JAグループが描く農業のデジタルイノベーション」と題し講演しました。昨今の生産と消費の劇的な変化に対応する鍵の一つが「農業のデジタルイノベーション」であること、全農は技術開発に自ら取り組み成果を生んできたこと、生産者が新しい技術を使いこなすうえで



先進技術を展示した全農ブース

TACをはじめとするJAグループのサポートが必要であることを紹介しました。（講演詳細は次号で）
**ドローンなど
先進技術を展示**

JAグループの展示ブースでは、ナイルワークス社のドローンの他、土壌分析の機器やZ-GISなどシステム、畜産関係では牛温恵やラウシラセ[®]などを展示しました。



来場者の目を引いた「米百俵」の展示

また、長岡藩の故事^{*}を解説するパネルとともに展示した「米百俵」は、来場者の目を引きました。

^{*}明治時代初期、北越辰辰戦争に敗れた長岡藩に見舞として贈られた米百俵を、同藩大参事の小林虎三郎が藩士らに分配せず、学校設立資金に充てた。

マルシェで東北和牛ローストビーフなどを販売

会場近くの地下歩道ではマル

シェが行われ、全農ブースでは「東北和牛^{*}のローストビーフ」をはじめ、ライスジンジャーミルク、11/19/B1ヨーグルトドリンクなどを販売しました。「東北和牛のローストビーフ」は試食での評価が高く、3日間で100個を超える販売実績をあげました。

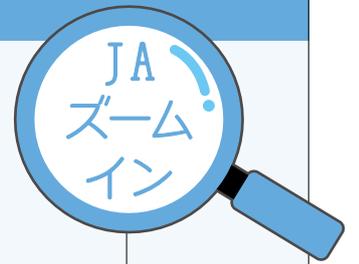
^{*}JA全農北日本くみあい飼料(株)直営の藤沢牧場で産まれた子牛を東北6県の農場で育てた和牛で、全農東北プロジェクトでブランド化したもの。

全農はこれからも農業技術の開発・普及に取り組み、農業を取り巻く諸課題の解決に貢献してまいります。



「東北和牛のローストビーフ」が好評だった全農のマルシェブース

「JAグループが描く農業のデジタルイノベーション」をテーマに講演する神出理事長



素材生かし6次化着々

特産野菜シリーズ好調

福岡県の南東部に位置するJAにじ管内は、山裾の扇状地で県内一の出荷量を誇る甘柿はじめブドウ、梨、桃などの果樹を、平たん地では米麦はじめ野菜類を生産。山間部ではセラピー体験ができる森林に棚

田が美しい景観を織りなしています。

**第1弾は「トマトスープ」
6次化コン最高賞など高評価**

JAでは販売開発係を中心に、果樹だけに頼らない新たな特産品開発に向け、



トマト、ハウレンソウ、春ゴボウの特産野菜スープを詰め合わせたギフト



JAにじ産トマトを100%使ったピューレで煮込んだ新商品「国産鶏のトマト煮」。非常食にも期待できる

最高賞の県知事賞を受賞しました。続いて管内屈指の野菜産地、久留米市田主丸町産の冬摘みだけを使った「ほうれん草

質の良い野菜を生かした6次化に乗り出しました。2010年、特産野菜6次化第1弾として発売したのがフリーズドライ「トマトスープ」です。にじ産「桃太郎」100%を原料に着色料や香料を使わず素材の風味を最大限生かし、2012年の日本農業新聞一村逸品大賞で金賞を、2015年には第1回福岡県6次化商品コンクールで

集荷体制確立で6次化を後押し

「ほうれん草スープ」を商品化。これら特産野菜スープシリーズは発売以来累計で200万食近くを売り上げました。今年2月には同じく田主丸産水田裏作春ゴボウを使った「春ごぼうスープ」を発売し好調な売れ行きを見せています。

販売開発係と生産部会の



トマトスープ向けの集荷

密な連携も6次化を後押ししています。スープ向けの集荷体制が整ったことで新たな商品開発へとつながっています。今年5月にはトマトシリーズ第2弾として「トマトスープ」のベースとなるトマトピューレを使い「国産鶏のトマト煮」を発売。レトルトタイプで温めてもそのままでもおいしく、非常食にも期待できます。

JAにじ (福岡県)



概要

平成30年3月31日現在

正組合員数	6494人
准組合員数	1万3129人
職員数	312人
販売品取扱高	75億1千万円
購買品取扱高	31億8千万円
貯金残高	762億6千万円
長期共済保有高	2773億1千万円
主な農畜産物	柿、トマト

県本部 だより

茨城県本部



県内和子牛生産拡大へ 茨城県本部モデル策定 哺育センターを研修の中核施設にも

茨城県本部は、和子牛頭数減少による子牛価格の高騰への対応策として、哺育センターを活用した「グランドデザイン茨城県本部モデル」を策定し、和牛増頭に自ら取り組んでいます。これまでの哺育育成事業に加え、新たに和牛繁殖事業や和牛ET卵移植事業による

**哺育センターに簡易牛舎
専任課長配置し体制整備**

2017年度から本格的に繁殖事業を始め、哺育センターで生まれた和子牛を県内の生産者へ安定供給し、ブランド牛の「常陸牛」をはじめ和牛増頭を目指しています。同年3月に簡易牛舎を3棟新設し、専任課長を配置しました。牛舎内には分娩・発情発見を通知するシステムや、牛を24時間監視するカメラを導入するなど生産管理体制を整えています。

11月には第1号牛が誕生し、今年6月1日時点で9頭の和子牛が生まれました。2020年3月末までに延べ100頭の生産、上場を計画しています。

ET卵移植事業に取り組み
又レ子早期受け入れ・育成



哺育センターで生まれた子牛と親牛

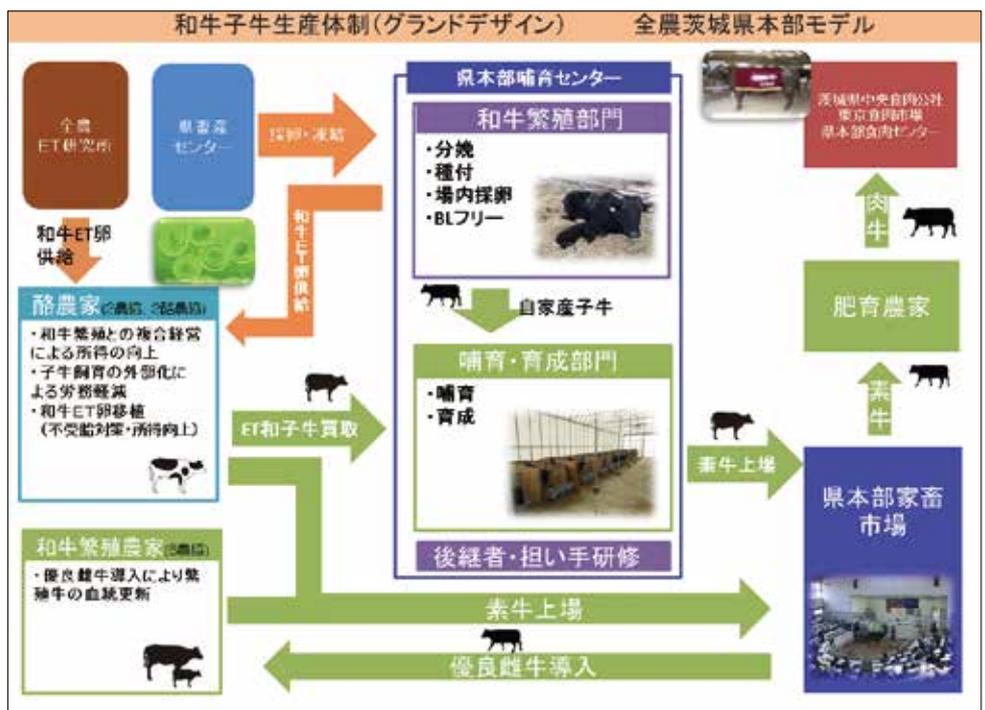
県内の契約酪農家と連携して「和牛ET卵移植事業」に取り組んでいます。ET受精卵移植で生まれた和子牛を哺育センターで引き取り、約10カ月齢まで飼養管理し、

**ET卵移植事業に取り組み
又レ子早期受け入れ・育成**

県内の契約酪農家と連携して「和牛ET卵移植事業」

県本部家畜市場から県内の肥育生産者へ供給します。2017年度には、これまでおむね3カ月齢で受け入れていた子牛を約1カ月齢で引き取る早期受け入れを始めました。酪農家が抱える子牛育成の負担を最小限

に抑え、受け入れ前の死亡リスクを低減し、受け入れ頭数の増頭が期待されます。今後も県内酪農家や全農ET研究所をはじめ、開業獣医師、県畜産センターなどと連携し、県内農家へ素牛の安定供給を図っていきます。





生産現場の声を反映した共同購入機を決定

YT357JZUQH (60馬力・総排気量3.3L)

全農は6月28日、共同購入するトラクターをYT357JZUQH（製造元：ヤンマーアグリ株）に決めたことを発表しました。〔生産資材部〕

10月から供給スタート

JA全農は、「農林水産業・地域の活力創造プラン」への対応として、農業機械事業では、生産現場の声を反映した大型トラクター（60馬力クラス）の共同購入に取り組んでいます。

具体的には、従来の50〜70馬力クラスの大型トラクター450型式について、農業者3団体（日本農業法人協会・全国農協青年組織協議会・全国農業青年クラブ連絡協議会）と全農による資材事業研究会の場で徹底した議論、生産者モニ

ターや1万人を超える生産者アンケートに基づき、生産者が必要とする機能の絞り込みを行いました。昨年9月に国内農機メーカー4社へ、指定した仕様書に基づく60馬力クラスのトラクターの開発を要求し、今年6月1日に各社から開発機の回答を受けました。

その後、生産者3団体の代表者とともに実機や社内試験データなどで開発要求事項を満たしていることを確認した上で入札を実施し、共同購入ト

ラクターを「YT357JZUQH」に決定しました。

このトラクターは、60馬力クラスではパワーにゆとりのあるエンジン（総排気量3.3L）を搭載し、生産者モニターで要望の強かった、おおむね1日無給油（※）で作業ができる燃料タンクを備えています。

この取り組みの成果は、①1000台の購入目標を掲げ、生産者が必要とする機能に絞り込むことでメーカーの製造コスト削減が図られたこと②さらに、JAグループが全国の生産者に結集を呼び掛け、積み上げた台数を背景に全農がスケールメリットを生かし入札を行ったことで、生産者の購入価格は、標準的な4社同クラスと比較し、おおむね2〜3割の価格の引き下げが実現されました。

（価格引き下げ割合はシンプル農機の普及状況や商業者との競合度合いなどにより地区ごとに異なります）



共同購入トラクターに決まったヤンマーアグリ株のYT357JZUQH

【共同購入の概要】

機種	トラクター（60馬力）
型式	YT357JZUQH
主な仕様	水冷4気筒直噴ディーゼルエンジン（総排気量3.3L）、燃料タンク容量56L、自動水平制御、自動耕深制御、倍速ターン、オートブレーキ、エアコン付キャビン、デラックスシート、大型サイドミラー、ワークランプ、チルトハンドル
メーカー希望小売価格	5,340,000円（税抜き） ※上記価格は単体価格（ハイラグ仕様）、オプション設定品は除く
供給開始	平成30年10月
共同購入目標台数	1000台 （平成30〜32年度・3力年）

【主要諸元】

機体寸法他	駆動方式	パートタイム4WD
	全長×全幅×全高(mm)	3,400×1,540×2,325
	地上最低高(mm)	448
	機体質量(kg)	2,092
エンジン	出力(PS/rpm)・総排気量(L)	60/2,500(グロス)・3.318
	燃料タンク容量(L)	56
走行	変速段数(段)	前進16段・後進16段
	最小旋回半径(m)	2.7
PTO	回転速度 正転／逆転(rpm)	565,790,1,004／704
油圧	油圧揚力(kgf)	1,700

※製造メーカー実測データ（エンジン回転2500rpm、PTO1速、ローター幅2.2m、耕深15cm）による。

岡山県で農業者向け青空講習会を開催

土壌診断で施肥改善へ意識改革目指す

全農は、農業者3団体（日本農業法人協会、全国農協青年組織協議会、全国農業青年クラブ連絡協議会）とともに「生産資材費低減に向けた資材事業研究会」を立ち上げ、営農を支援しています。農業者団体からは、最新情報の伝達や人材育成機能を期待する声が多く出されています。これを受け、昨年11月に埼玉県川越市で「土壌」をテーマにした講習会を開催しました。そして5月31日、全国農業青年クラブ連絡協議会の森安晃司監事の圃場（岡山県備前市）で地元農業者15人を対象に青空講習会を開きました。

【営農・技術センター】



森安氏の圃場の断面を観察する参加者



水田にハウスを建てて10数年経過した土壌断面

土壌の状態を知り、生産性の向上につなげる

深さ60センチほどの土壌断面からは、ハウスを建てて10数年経過したにも関わらず水田土壌の特徴が観察されました。約10センチの作土より下は硬く、栽培中の小松菜の根もそれ以下へは伸長できない状態でした。関東営農



森安氏による馬ふん堆肥を使った土づくりの紹介

資材事業所の金子技術主管は「深耕で1センチでも作土を深くし、腐植を補給して団粒構造を作る」と生産性を高める土づくりと生産基盤の維持について力説しました。

土壌診断を施肥改善に生かす

参加した農業者の土壌分析からはE.C、リン酸、硝酸態窒素が高いことが分かりました。農業者からは「リン酸の減肥に取り組みたい。過去の分析結果と照らし合わせ、リン酸の減り具合を確認していく」などの気付きや施肥改善に向けた取り組み、意識改革につながりました。

また、自ら土壌分析を行う森安氏は「土壌の状態が分からないと不安で肥料を多く入れてしまいがち。数値を知ることによって適切な施肥ができる」と土壌診



地域土壌の特徴についての説明

断に基づく施肥改善の重要性を訴えました。

講習会後のアンケートでは「自分の畑を知ることからもう一度始めたい」「自分で診断できるようにしたい」などの決意が述べられており、本講習会が土壌を見詰め直すきっかけになりました。今後もこのような講習会を水平展開し、農業者の自発的な施肥改善を支援します。全農は、土壌診断を活用した施肥改善を農業者とともに実践することにより、手取り最大化の実現を目指します。

日本農業新聞がFMで“読める!”「TODAY'S AGRI NEWS」 7月2日(月)から毎朝(月~金)生放送!

全国のJA役員へのインタビューコーナーも

5月4日(金)から週1回、午前6時25分(JFN35局、ほか3局は時間帯別)から5分間の農業ニュース番組として始まった東京エフエム(TFM)のラジオ番組「TODAY'S AGRI NEWS(全農提供)」。7月2日(月)から毎朝(月~金)6時30分(JFN38局)から5分間の生放送番組に生まれ変わります。
【広報部】

この番組は、その日の日本農業新聞に掲載された記事の中から、「農業情勢・農政」「作況・市況」などの分類により、TFMが注目の出来事を選び出し報道する番組です。

7月からは、TFMが電話取材により全国のJA役員に自己改革の取り組みについてインタビューするコーナーも常設します。

パーソナリティーはTFMの看板情報番組クロノス(平日毎朝6:00~8:55)のお2人(月~木:中西哲生氏、金:速水健朗氏)



ホームページ
<http://www.tfm.co.jp/agrinews>



アプリで聴取可能!

以下のアプリでも聴取いただけます



全農 ZEN-NOH

JA全農 オフィシャル アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上

JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

JA富里市(千葉県)

JAタウンはこちら

うまさ独占富里スイカ(約6*、L1玉).....4000円

千葉県富里市は全国有数のスイカの名産地。スイカ栽培の歴史は80年を誇っています。

「富里スイカ」は関東平野の中でもスイカに適した環境と、長年の栽培技術を生かして年明けから収穫期まで約半年間、1玉1玉手間暇惜みず、愛情を注いで育てています。

太陽を十分に浴びて育った黒と緑のおなじみの皮に、大地の栄養を吸収したみずみずしい真っ赤な果肉、食べたらずわらず笑顔になる、甘さ・香り・食感と3拍子そろったおいしさです。

この機会にぜひご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、7/6(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。
※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金の他、クール代、お届け先により送料がかかります。ご注文期間を過ぎると価格や送料が変わる場合があります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。